

学習内容報告書 フォーマット

学校名	福島県南会津郡只見町立明和小学校
授業者	全教職員

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

尾瀬遠足

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科等（単元を実施する教科等を全てお書きください）

生活科（1・2年）・総合的な学習の時間（3～6年）及び学校行事（遠足・集団宿泊的行事）

1-4. 単元の概要

7月5日（金）に遠足として、全校児童対象の活動を位置付けた。

只見川の源流である尾瀬を実際に歩いたり、専門家に説明をいただいたりすることで、自然の雄大さとともに、自然を守ることの大切さ、また山と川、そして海とのつながりについて考えるきっかけとしたいと考え、単元を位置付けた。全学年で位置付けした理由としては、単一学年で学びを終息させるのではなく、それぞれの学年に系統性をもたせ、1～6年生の学びとしてつながりをもたせていくことである。そうすることで、学校全体として学びの共有化を図ることができた。

また昨年度は、9月に遠足を位置付けていたが、時期をずらすことで、自然の変化や様子の違い等にも気付かせ、季節感にふれさせたり、それに伴う豊かな情操を培ったりすることができた。

この学びを通して、4年生の「川の水をたどって」における「水質調査」や「自然を守ることの意義」等について深く考えるための学習につなげていくきっかけとなった。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 只見川の源流としての尾瀬を実際に散策することで、ESD・海洋教育の学びを体験的に深める機会とする。（3～6年）
- 尾瀬を散策し、実際に美しい自然にふれることで、情操を豊かにする機会とする。（1・2年）
- 集団行動を通して、規律の必要性や大切さを感じとらせ、道徳的実践力を伸ばす。（全学年）

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 美しいものにふれ、そのよさに気付くことができる力（知識及び技能）
- 雄大な尾瀬の自然散策を通して、その大切さや美しさ、神秘さ等について気付いたことを基に、自分の思いをもったり考えたりする力（思考力・判断力・表現力等）
- 尾瀬の自然と関わりから只見とのつながりや自分にできることを考えたりしようとする力（学びに向かう力・人間性等）

1-7. 単元の展開（全7時間 ※2時間：生活・総合、 5時間：1日行事）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尾瀬遠足で見てきたいこと、知りたいことを考えたり、それぞれのめあてを決めたりし、遠足の計画を立てる。 ・ 各学年及び児童一人一人の実態に応じ、自分自身の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じためあてを立てられるよう、実態に応じて支援をしたり、助言をしたりする。 ○ 尾瀬で観察できる動植物のガイドマップを配付し、意欲付けを図るとともに、計画の一助とさせる。
2 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察ポイントで、特色ある動植物についての説明を受けながら実際に尾瀬を散策する。 ○ 水の循環についての説明を受けることで、只見町の川とのつながりを知ったり、自然を守ることの大切さについて考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尾瀬ガイドの方に、尾瀬に生息する動植物について説明をしていただいたり、散策する際に注意すべきことを教えていただいたりする。 ○ 目的意識をもって活動できるように、ガイドマップを生かしたり、ポイントを絞って説明の場所を設けたりする。
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尾瀬遠足で見てきたこと、初めて知ったこと等について話し合い、学びの振り返りをする。 ○ 遠足で学んだことを絵や作文、新聞等にまとめる。 ○ これからのそれぞれの学年における学びへのつながりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの際は、見てきたことや聞いたことばかり出し合うのではなく、そこから考えたことや友だちとの気付きの違いなどにもふれさせることで、学びを深めていけるようにする。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

尾瀬を歩き、雄大な自然にふれたり、特色ある動植物について知ったりすることを通して、尾瀬の自然の様子に気付くとともに、自然の大切さについて感じることができるようにする。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 尾瀬を歩く際のルールや注意点を確認する。	○ 全体指導の場で、自然保護の観点、安全面の観点から、児童自身が意識できるように指導した。また、全体指導の後には、学年ごとに実態に応じた指導をしたことで、より意識化が図られた。
2 前時の学習をもとに、自分自身のめあてを確認する。	○ 前時の学習から、自分自身のめあてを想起させ、目的意識をもって活動できるようにさせた。
3 観察ポイントで、特色ある動植物についての説明を受けながら実際に尾瀬を散策する。	○ 尾瀬ガイドを活用し、説明していただいたことで、より専門的に尾瀬の特色ある動植物について知ることができるようにさせた。また、説明を受ける際は、説明ポイントを絞ったことで、事前の計画に合わせた散策及び活動となるようにした。
4 水の循環についての説明を受けることで、只見町の川とのつながりを知ったり、自然を守ることの大切さについて考えたりする。	○ 尾瀬の散策をし、動植物について知るだけではなく、尾瀬が起点となり流れていく川の水の循環についても学ばせたことで、只見町とのつながりについて気付かせるとともに、自然を守ることの大切さについて考えさせていけるようにした。
5 本時の学習を振り返り、次々からの学習への意欲を高める。	○ 活動の中で、児童の気付きを広めたり、そのよさを価値付けたりしたことで、児童に学びのよさを実感させ、今後の学習の意欲付けにつなげていくことができた。

3. 今回の活動の自己評価

- 尾瀬ガイドを活用したことで、より専門的な知識や技能をもって子どもたちに観察をさせることができた。そうすることで、気付きの広がりが見られたり、自然保護の意識の高まりを感じたりすることにつながった。
- ただ、散策し、動植物を観察させるだけでなく、水の循環についても併せて学ぶことで、尾瀬と只見のつながりに気付かせることができたとともに、自然保護意識を高めることができた。
- 今回の尾瀬遠足で、「山」と「川」、「海」のつながりを知り、体験を通して実感を伴った気づき、理解をさせることができた。

4. 今後の課題

- 今年度、昨年度と2回の尾瀬散策を位置付け、季節の変化に伴う動植物の違いに目を向けさせてきたことで、尾瀬遠足の目的が達成された。次年度については、尾瀬以外での、体験活動や遠足等を位置付けることで、本單元において身に付けてきた資質や能力を育めるようにしなければならない。そのためにも、考えられる学びの場や教育資源を発見・把握していく必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 全学年での実施であるため、1～6年生に共通する学習展開になっている。各学年に応じた指導事項や評価等については、実態に応じてより細かに考えなければならない。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。